

科目名	国際政治論特殊研究	担当者	シノブ タカシ 信夫 隆司	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、国際政治における具体的な事象について、実証的に明らかにする意義を学ぶことを目的とする。具体的には、日米関係を対象として、以下のふたつの問題を取り上げる。</p> <p>ひとつは、日米間で交わされた密約についてである。日米密約の存在については、これまでも議論されてきたものの、外交文書を基に、実証的に明らかにすることが困難であった。しかし、近年における外交記録の公開によって、密約の存在が明らかにされている。</p> <p>もうひとつは、通常の外交チャネルとは別に、いわゆる密使外交とはいかなるものであるかを理解することである。具体的には沖縄返還交渉における密使の役割について学修する。</p>															
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国際政治における具体的な事例を通して、問題の掘り下げ方、資料収集・分析の仕方を学ぶとともに、国際政治を理解するために一次資料の重要性を学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次資料の収集の仕方、ならびに、資料の読み解きについて基本的な知識を習得し、学位論文の作成にも役立てるようとする（技能・想起）。 ・一次資料を批判的に読みこなすことによって、国際政治事象の深奥を読み解くことができる能力を身につける（知識・解釈）。 ・具体的な事例を通して、問題点・考察すべき点を展開できる（問題解決）。 															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio・メール・Zoom などを利用し、教員と院生との間で、双方向による指導をおこなうこととする。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 リポートの作成 1 本につき、最低 45 時間を要する。具体的には、基本教材の理解（10 時間）、リポート課題に関する参考文献の理解（10 時間）、リポートの初校作成（15 時間）、レポートの加筆・修正（10 時間）である。</p>															
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 最終リポートの提出は、学年暦で定められた期限によること。 (2) リポート初校の提出は、前期では 7 月中旬、後期では 11 月中旬までとする。その過程で、必要に応じ、質疑応答をおこなう。 (3) 初校リポートに修正を施し、訂正を加えたうえで、期限までに最終稿を提出する。 															
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">種 別</th> <th style="text-align: center;">割 合</th> <th style="text-align: center;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">リポート</td> <td style="text-align: center;">70 %</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・リポート課題に沿って、リポートが作成されていること。 ・リポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。 ・リポートとしての形式を備えていること。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">観察記録</td> <td style="text-align: center;">30 %</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・教員とのやりとりが十分におこなわれていること。 ・初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。 </td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割 合	評価基準	リポート	70 %	<ul style="list-style-type: none"> ・リポート課題に沿って、リポートが作成されていること。 ・リポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。 ・リポートとしての形式を備えていること。 	観察記録	30 %	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とのやりとりが十分におこなわれていること。 ・初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。
種 別	割 合	評価基準														
リポート	70 %	<ul style="list-style-type: none"> ・リポート課題に沿って、リポートが作成されていること。 ・リポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。 ・リポートとしての形式を備えていること。 														
観察記録	30 %	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とのやりとりが十分におこなわれていること。 ・初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。 														
履修者への要望	<p>この講義では、とくに、一次資料の重要性を学んでもらいたいと思います。とりあげるのは、日米密約、ならびに、密使外交です。</p> <p>2010 年に外務省による密約調査がおこなわれて以降、日米密約に関する研究は、それまで推測の域を出なかったものから、外交文書の分析をとおして、実証的に明らかにできるようになりました。もちろん、それにはアメリカ側の公文書の発掘も寄与してきました。</p> <p>われわれが普段利用する書籍、学術論文、新聞記事等は、すべて二次資料です。それらの二次資料に記述されている内容の裏付けとなるのが一次資料です。一次資料は文書の形式によるものだけではありません。たとえば、インタビューや証言といった口頭の記録も重要になります。</p> <p>博士後期課程の最大の目標は、学位論文を仕上げることです。その際、かならず一次資料の問題が出てきます。その重要性をこの講義をとおして学んでいただければと思います。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 信夫隆司 教材名： 『日米安保条約と事前協議制度』、弘文堂、2014年。 ISBN9784335460333 3,800円+税
	本書は、1958年から1960年迄の日米安保条約の改定交渉、ならびに、1969年の沖縄返還交渉を対象とし、「核持ち込み」および「戦闘作戦行動のための基地使用」に関する事前協議制度を中心に、日米の交渉方針、交渉の実態と結果を詳細に分析したものである。
参考図書	太田昌克 『日米“核”同盟—原爆、核の傘、フクシマ』、岩波新書、2014年。 ISBN9784004314981 880円+税
履修上のポイント	(1) 1960年に改定された日米安保条約の交渉において、旧安保条約の何が問題とされていたのかを理解する。 (2) 現行の日米安保条約において、事前協議制度とはいかなるものかを理解する。 (3) 核持ち込み密約について理解する。 (4) 戦闘作戦行動（朝鮮議事録）について理解する。 (5) 沖縄返還交渉における核持ち込み問題を理解する。
リポート課題 1	旧安保条約と現行の安保条約の違いを明らかにしながら、事前協議制度とはいかなるものであるかを論じるとともに、この問題について私見を述べなさい（4,000字程度） 留意点：事前協議制度とは果たして実効性のあるものであるかを考察すること。
リポート課題 2	第二章から第四章までのうち、関心のあるテーマを選択し、分析するとともに、私見を述べなさい（4,000字程度）。 留意点：どのテーマを選択してもよいが、なぜそのテーマを選択したかを明記すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 後藤乾一 教材名： 『「沖縄核密約」を背負って—若泉敬の生涯』、岩波書店、2010年。 ISBN9784000224031 3,600円+税
	本書は、1969年の沖縄返還交渉において、当時の佐藤栄作総理の密使として活躍した若泉敬・元京都産業大学教授の業績をまとめたものである。沖縄への核持ち込み問題、ならびに、当時の日米繊維交渉における若泉とキッシンジャー大統領補佐官との交渉の様子が記されている。
参考図書	信夫隆司 『若泉敬と日米密約—沖縄返還と繊維交渉をめぐる密使外交』、日本評論社、2012年。 ISBN 9784535586178 4,700円+税
履修上のポイント	(1) 若泉敬とはいがなる人物であったのかを理解する。 (2) 1967年の佐藤・ジョンソン会談において、若泉敬は密使としていかなる役割を果たしたのかを理解する。 (3) 1969年の佐藤・ニクソン会談において、若泉敬は密使としていかなる役割を果たしたのかを理解する。
リポート課題 1	1967年の佐藤・ジョンソン会談において、若泉敬が密使として果たした役割について論じなさい（4,000字程度） 留意点：共同声明の文言がどのようになったのかに留意すること。
リポート課題 2	1969年の佐藤・ニクソン会談において、若泉敬が密使として果たした役割について論じなさい（4,000字程度）。 留意点：共同声明の文言および核持ち込み密約の内容を把握すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修（序章）
第 2 回	教材の学修（第一章 安保改定交渉の開始）
第 3 回	教材の学修（第一章 安保改定交渉の開始）
第 4 回	教材の学修（第二章 核持ち込み密約の謎）
第 5 回	教材の学修（第二章 核持ち込み密約の謎）
第 6 回	教材の学修（第三章 朝鮮議事録の怪）
第 7 回	教材の学修（第四章 沖縄返還交渉の実相）
第 8 回	教材の学修（第四章 沖縄返還交渉の実相）
第 9 回	教材の学修（終章）
第 10 回	リポート課題 1, 2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき、関連文献のリサーチ
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修（第一章 越前の片田舎から世界へ）
第 2 回	教材の学修（第一章 越前の片田舎から世界へ）
第 3 回	教材の学修（第二章 一九六〇年代日米関係の激流）
第 4 回	教材の学修（第二章 一九六〇年代日米関係の激流）
第 5 回	教材の学修（第三章 内閣総理大臣特使として）
第 6 回	教材の学修（第三章 内閣総理大臣特使として）
第 7 回	教材の学修（第四章 著述への決意）
第 8 回	教材の学修（第四章 著述への決意）
第 9 回	教材の学修（第五章 余命尽くるとも）
第 10 回	教材の学修（第五章 余命尽くるとも）
第 11 回	リポート課題 1, 2 の初校提出
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出